

文芸春秋 2007 年 10 月号
「変な国・日本の禁煙原理主義」
対談者養老孟司氏・山崎正和氏に対する公開質問状

日本禁煙学会
理事長 作田 学
〒162-0063 新宿区市谷薬王寺町30-5-201
ファックス 03-5360-6736
メールアドレス desk@nosmoke55.jp
ホームページ <http://www.nosmoke55.jp/>

京都大学ご卒業の著名な劇作家であられ、数年前に「二十一世紀のたばこ対策検討会」の審議委員をお勤めになられ、今また中央教育審議会会長というわが国の教育の将来を左右する重責を担っておられる山崎正和氏と、東京大学医学部を卒業され解剖学の東京大学名誉教授として、多数の著作と講演活動を通じて、わが国の最高峰の知性を代表すると称揚される養老孟司氏お二人の文芸春秋誌上の対談でのご発言に関して、以下の諸点についてのご見解を是非ともお聞かせいただきたいと存じます。

ウソをつかない、科学的に物事を見る、そして人間的な社会をつくるという三点については、お二人とわれわれの立場は一致すると考えますので、ご多忙中とは存じますが、以下の六つの質問に可及的速やかにお答えいただきますようお願い申し上げます。

ご回答期限は 2007 年 10 月末日とさせていただきます。

1. 肺ガンの主な原因が喫煙ではないという根拠をお示し頂きたいと存じます。
2. 受動喫煙には害がないという根拠をお示し頂きたいと存じます。
3. 疫学に信用はおけないとおっしゃっておられますが、対談中に 2 件の疫学データをもとに、ご自分の主張を補強されておられる箇所があります。疫学には良い疫学とダメな疫学の二種類があるのでしょうか。そうなら、それはどこで見分けるのでしょうか。お教えてください。
4. タバコよりも大気汚染のほうが大問題だというご主張の根拠をお示し頂きたいと存じます。

5. 対談中に『たばこ問題は誰が金を出しているか』と考えると良くわかる」というくだりは、われわれも全く同感いたします。けだし慧眼と存じます。「社会の裏側」でどれだけの金が動いているかを知ることは、事の本質を理解する上でとても参考になると考えます。つきましては、養老様と山崎様におかれましては、日本たばこ産業をはじめとしたタバコ業界から、講演料、顧問料、コンサルタント料などの金銭的報酬を受けておられますでしょうか。利害関係の開示は、欧米先進国の学術雑誌の投稿論文の不可欠の部分となっており、国際感覚豊かなお二人でありますれば、その重要性についてはあらためてお聞きするまでもないことですが。

6. 「70 歳を過ぎたらアヘンを解禁したら、いまよりも幸せな老人が増えるかもしれない」というご発言は中央教育審議会会長のお言葉とも思えません。また、「中学時代に人目を気にして吸っていた」も同様です。私たちはこのような違法行為を文藝春秋という公開の誌上でお勧めになるような方を中教審の会長としておいて大丈夫なのでしょうか。
これについてもお答え下さい。

おいで頂けるのなら、公開討論会を催すのも結構かと存じます。日時をご指定頂ければ、たいへん幸いに存じます。

以上